

# 平成29年度 事業報告書

(自平成29年4月1日～至平成30年3月31日)

公益財団法人 全国学校農場協会

## ＜概 要＞

平成 30 年 5 月 9 日に第 1 回理事会を開催し、29 年度の事業報告書の件、収支決算書の件について承認された。農業教育（農業技術）の発展と振興を図る事業（公 1）として以下を行った。全国大会・支部大会での農業教諭による研究発表及び各界のリーダーを招聘しての講演会（農林水産省・農林水産政策研究所企画広報室長兼首席政策研究調査官 吉田行郷先生他）を開催した。また農業教育研究協議会では農業教育に関する調査・研究成果の発表と協議及び農林水産省・生産局農業環境対策課（生産工程管理担当）宮地修平課長補佐より講演をいただいた。

農業教育功労者表彰は全国 145 名に授与された。シンポジウムについては、今年度を過去 4 年間に実施したものについて内容・運営・関係団体との連携の在り方等について検証を行う年としたため 1 回のみの実施となった。学術・科学技術の振興を図る事業として全国 8 地区で農業実験実習講習会を実施した。この講習は教員免許状更新講習（6 地区で実施・62 名／124 名（内・東北地区受講者 31 名は、高校総体系分担のため期間中継続して出席することが出来ず未修了者）の選択領域を実施することについて文科省から認定されており 124 名の参加を数えた。農村文化・芸術・文芸に関する事業では、日本農民文学会との共催による全国農業関係高等学校エッセイコンテストを実施したところ全国から多くの応募があり北海道岩見沢農業高等学校 滝口みなみさんが最優秀賞に輝いた。作品は機関新聞並びにホームページ上に掲載した。また日本棚田学会と協賛している「農業関係高校フォトコンテスト」には生徒 126 点、職員 14 点、計 140 作品の応募があり、生徒の部の最優秀賞に石川県立七尾東雲高等学校の柝本守晴君が、職員の部の最優秀賞に福島県立会津農林高等学校の江川 篤先生が決まった。

## I 会員の動向

### (1) 協賛会員の状況（平成 30 年 3 月 31 日現在）

〔地区別協賛会員数〕

	27 年度	28 年度	29 年度	増・減（28 年度比）
北海道地区	401 名	406 名	403 名	－3
東北地区	896 名	897 名	895 名	－2
関東地区	1549 名	1543 名	1535 名	－8
北信越地区	483 名	482 名	480 名	－2
近東地区	1111 名	1106 名	1111 名	＋5
中国地区	546 名	542 名	536 名	－6
四国地区	397 名	402 名	397 名	－5
九州地区	1321 名	1303 名	1282 名	－21
本部個人会員	22 名	25 名	27 名	＋2
会員総数	6726 名	6706 名	6666 名	－40

## II 各種事業活動の実施報告

〈農業教育（農業技術）の発展と振興を図る事業・・・（公I事業）

- 1、研究発表及び教育行政・農政・学術・学際的講演による農業教育を推進する事業  
※原則一般公開、開催・内容については本協会ホームページにて告知する。

### 1) 講演事業

〔全国大会講演〕（全国高等学校農場協会と共催）

講演1、「進む農業分野での障害者就労」

農林水産省農林水産政策研究所

企画広報室長兼首席政策研究調査官 吉田 行郷 先生

講演2、「当面する初等中等教育の課題」

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

産業教育振興室長・視学官 高見 太也 先生

〔農業教育研究協議会講演〕（全国高等学校農場協会と共催）

講演1、「GAPを取り巻く状況と当面の展開について」

農林水産省生産局農業環境対策課

生産工程管理担当課長補佐 宮地 修平 先生

講演2「初等中等教育の課題について」

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

産業教育振興室長・視学官 高見 太也 先生

講演3、「新規就農対策について」

農林水産省経営局就農・女性課

課長 佐藤 一絵 先生

〔支部大会講演〕（全国高等学校農場協会各支部大会と共催）

北海道支部 「高校生に知ってもらいたい、農業の新しい働き方」

株式会社ノベルズ 代表取締役 延與 雄一郎

東北支部 「農工連携で生み出すアグリビジネス」

山形大学 教授 城戸 淳二

関東支部 「“バイオエコノミー時代の到来！”心豊かな持続社会を創るバイオテクノロジー・バイオミミクリーの世界」

東京農業大学農学部 教授 長島 孝行

北信越支部 「“湧く” Project すべては農から始まる・・・」

湧々農場 代表 吉田 稔

近東支部 「地域活性化のための農業の役割」～拠点としての直売所の秘めたる可能性～

株式会社シンセニアン 代表取締役 勝本 吉伸

- 中国支部 「地域に活力をもたらす人材の育成において大切なこと」～半農半Xの観点から～  
半農半X研究所 代表 塩見 直紀
- 四国支部 「農業に革命を！」  
ベルグアース株式会社 代表取締役社長 山口 一彦
- 九州支部 「“生命の根を養う”～農業教育の核となるものは何か～」  
一般社団法人 倫理研究所 理事長 丸山 敏秋

## 2) 調査・研究的事業

[全国大会研究発表]

- ・「将来の農業を担う専門人材育成について」  
ー本校におけるSPH事業の取り組みー  
群馬県勢多農林高等学校 教諭 松島 伝一
- ・「知的財産学習と専門学習を融合した研究活動の展開」  
ー地域・企業等と連携した知的財産学習のシステム作りと校内外指導体制の充実ー  
岐阜県立大垣養老高等学校 教諭 箕浦 誠
- ・「農業生産者としての規範意識を身につける“生産工程管理”の学習指導」  
ー農産物の生産工程管理に自己審査と他者審査を位置づけた協働学習を通してー  
福岡県立福岡農業高等学校 主幹教諭 鬼木 清

[支部大会研究発表] (全国高等学校農場協会各支部と共催)

- 北海道支部 「グローバル化や法人化、6次産業化や企業参入等に対応した経営感覚の醸成を図るにはいかにあるべきか」  
北海道美幌高等学校 教諭 三浦 隆雄
- 「持続可能で多様な環境に対応したグローバル人材育成の充実を図るにはいかにあるべきか」  
北海道岩見沢農業高等学校 教諭 伊藤 直人
- 「科学的な根拠を踏まえた地域資源の活用やヒューマンサービス分野における創造的・実践的な人材育成の充実を図るにはいかにあるべきか」  
北海道美唄尚栄高等学校 教諭 進木 澄人
- 「生徒が積極的に取り組む学校農業クラブ活動を目指し、農業クラブ三大事業への指導実践はいかにあるべきか」～地域課題に即した実践的なプロジェクト指導はどのように展開すべきか～  
北海道とわの森三愛高等学校 教諭 尾崎 仁
- 東北支部 「農業教育における原則履修科目の教科指導はどうあればよいのか」  
青森県立五所川原農林高等学校 教諭 三上 浩樹

	宮城県立亙理高等学校	教諭	佐藤 靖行
	山形県立新庄神室産業高等学校	教諭	今井 正朝
	「先進的で魅力ある農業教育の実践はどうあればよいのか」		
	岩手県立盛岡農業高等学校	教諭	野村 雅敏
	秋田県立秋田北鷹高等学校	教諭	堀部 洋一
	福島県立相馬農業高等学校	教諭	齊藤 勇樹
	「豊かな人間性を育み、生徒一人ひとりの個性の伸長を図るキャリア教育推進の農業教育はどうあればよいのか」		
	青森県立三本木農業高等学校	教諭	佐々木秀幸
	宮城県立南郷高等学校	教諭	渡部 剛実
	山形県立庄内農業高等学校	教諭	五十嵐真徳
	「生徒の実践的・創造的な態度・能力を育む農場運営はどうあるべきか」		
	岩手県立水沢農業高等学校	教諭	沼澤 信典
	福島県立会津農林高等学校	教諭	江川 篤
	秋田県立大曲農業高等学校	教諭	藤井 亨
関東支部	「有機農業教育の実践」		
	東京都立農業高等学校	主幹教諭	宍戸 寿
	「特色ある教育活動について」		
	～農場運営と効率的な教育活動を目指して～		
	山梨県立笛吹高等学校	教諭	中村 芳仁
	「神奈川県農業高校の造園教育の概要」～特色ある教育活動について～		
	神奈川県立相原高等学校	教諭	柰代 純子
	「特色ある教育活動について」～造園教育におけるICT活用～		
	静岡県立静岡農業高等学校	教諭	水野 勝巳
	「農業高校の特色を活かした進路指導について」		
	～農業土木科における進路指導への取り組み～		
	茨城県立水戸農業高等学校	教諭	加藤 雅貴
	「農業高校の特色を活かした進路指導について」		
	群馬県立中之条高等学校	教諭	櫻井 喬典
	「地域貢献・地域連携を生かした農業教育について」		
	～地域と連携した生物工学科の取り組みについて～		
	千葉県立大網高等学校	教諭	吉田 暁
	「地域貢献・地域連携を生かした農業教育について」		
	～地域と連携した学科の取り組みについて～		
	栃木県立那須拓陽高等学校	教諭	中島 亮介
北信越支部	「地域や社会の健全な発展を担う人材育成について」		

新潟県立長岡農業高等学校 教諭 若杉 祥彰

「地域貢献・連携を進める地域資源を生かした教育活動について」

長野県立下高井農林高等学校 教諭 常盤 英資

「新大会基準にもとづいた農業クラブの指導について」

富山県立中央農業高等学校 教諭 柴田 恭伸

近東支部 「栽培・飼育および流通系科目の魅力ある農業教育の創造に向けた指導の実践について」

和歌山県立南部高等学校 教諭 出口 豊高

岐阜県立岐阜農林高等学校 教諭 廣瀬 大和

三重県立伊賀白鳳高等学校 教諭 大森 亘子

「食品加工系科目の魅力ある農業教育の創造に向けた指導の実践について」

兵庫県立氷上高等学校 教諭 中島 都

京都府立綾部高等学校 教諭 和地良太郎

愛知県立渥美農業高等学校 教諭 野々山翔太

「環境・ヒューマンサービス系科目の魅力ある農業教育の創造に向けた指導の実践について」

大阪府立枚岡彰風高等学校 教諭 今野 茜

奈良県立御所実業高等学校 教諭 吉田 宏

滋賀県立長浜農業高等学校 教諭 菱田 実

「地域農業や地場産業の発展に貢献できる人材の育成について」

三重県立久居農林高等学校 教諭 野田 武宏

和歌山県立熊野高等学校 教諭 木本 和典

岐阜県立飛騨高山高等学校 教諭 島田 正幸

「地域活性化を担う魅力ある農場運営について」

愛知県立稲沢高等学校 教諭 持地 信雄

兵庫県立作用高等学校 教諭 上村 昌史

京都府立須知高等学校 教諭 笠原 亨太

中国支部 「地域の食料供給・ヒューマンサービス分野に活力をもたらす人材の育成を目指して」～農業後継者を増やす取り組み～

岡山県立興陽高等学校 教諭 藤本 泰史

「農に関わるすべての人が安心・安全である食料供給を目指して」

島根県立出雲農林高等学校 教諭 藤原 務

「地域の環境創造・素材生産・バイオテクノロジー分野に活力をもたらす人材の育成をめざして」～地域との連携・交流を通して人材育成～

山口県立奈古高等学校

萩高等学校奈古分校 教諭 大野 元大

「地域の環境創造・素材生産・バイオテクノロジー分野に活力をもたらす人材の育成をめざして」

鳥取県立倉吉農業高等学校 教諭 北村 真吾

「地域に活力をもたらす人材の育成につながる農場運営をめざして」

島根県立矢上高等学校 教諭 三谷 圭一

「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取り組みを通じた科学技術人材の育成」

広島県立西条農業高等学校 教諭 小倉 弘士

四国支部 「憩いの広場による農業のふれあい」

香川県立高松南高等学校 教諭 金子 忠相

「農業高校における実習助手の在り方」

～生徒のため 未来のため 地域のため 必要な人材を育てるために～

愛媛県立大洲農業高等学校 実習助手 水本 豊

九州支部 「学校、生徒の実態に応じた農業機械の学習指導」

福岡県立田川科学技術高等学校 教諭 金子 拓広

「本校フードビジネス科における取り組み」

宮崎県立高鍋農業高等学校 教諭 村山 範朗

「肉牛の肉質向上計画」

鹿児島県立曾於高等学校 教諭 太田 裕士

「地域に根ざした畜産後継者育成」

～学校と農家が創るウシづくり・ヒトづくり～

長崎県立島原農業高等学校 教諭 森 広太郎

「交流活動から生まれた絆～今私たちに出来ること～」

熊本県立天草拓心高等学校 教諭 牛田 久寿

「高校生による店舗運営の成果と展望」

佐賀県立佐賀農業高等学校 教諭 藤田 諭

「バイオテクノロジーにおける科学的な探求過程を重視した指導」

大分県立三重総合高等学校 教諭 吉松 泰介

「農業教育の情報化への取組」

沖縄県立中部農林高等学校 教諭 小那覇 憲

[農業教育研究協議会での発表]

食品系部会：「食品化学実験における課題の解決に向けて」

～実施状況とその課題と対策～

静岡県立浜松湖北高等学校 教諭 新井 淳一

環境系部会：「魅力ある取り組み事例に関する調査」

東京都立農業高等学校 実習教諭 小野寺 拓

上記調査・研究のほか、本公益財団法人研究局では6分野の教育課程専門部会（植物系部会・動物系部会・環境系部会・流通経営部会・ヒューマンサービス部会）を設置し、農業教育に関する調査研究を継続的に行っており、現場での農業教育実践に生かされている。また、農業高校の特色ある取り組み・大学推薦入学に関する調査も行っている。これらの結果は農業教育研究協議会における研究発表や研究集録並びにホームページで公開している。

平成29年度研究報告：植物系・動物系・流通経営系・ヒューマンサービス系の4部会が報告

平成29年度調査結果：教育課程に関する調査・・・科目「農業と環境」について  
：大学推薦入試に関する調査  
：農業系高校の特色ある取り組みについて  
(研究集録：平成29年度第55号掲載・参照)

## 2、学術及び科学技術の推進を目的とする事業

### (1) 農業実験実習講習及び教員免許状更新講習（講習詳細は別添資料）

全国6地区で実施した。受講者は124名、このうち教員免許状更新講習対象者は56名であった。ただし、受講者の内31名は東北地区の受講者で、講習開講時期と宮城高校総体とが重なったために役割担当の関係から5日間継続して受講することができず、修了証書を授与することが出来なかった。

#### ○講習会概要と受講者数〔（ ）は免許状更新講習対象者数〕

- ・北海道地区「食品製造・畜産」 帯広畜産大学 受講者 15名（9）  
平成29年7月31日（月）～8月4日（金）  
講師：木田 克弥（教授） 中村 正（准教授） 平田 昌弘（准教授）  
山下 慎司（助教） 渡辺 信吾（特任教授）  
西部 潤（十勝農協連生乳検査センター研究員）
- ・東北地区：「農業と環境」 東北大学大学院農学研究科 受講者 延31名  
附属複合生態フィールドセンター  
平成29年7月24日（月）～7月28日（金）  
講師：齊藤 雅典（教授） 小倉振一郎（教授） 中井 裕（教授）  
清和 研二（教授） 伊藤 豊彰（准教授） 多田千佳（准教授）  
陶山 佳久（准教授） 田島 亮介（助教） 福田 康弘（助教）  
深澤 遊（助教）
- ・関東地区「食品化学」 日本大学 生命資源科学部 受講者 22名（14）  
平成29年8月21日（月）～8月25日（金）  
講師：熊谷日登実（教授） 関 泰一郎（教授）

近藤 春美 (専任講師)

- ・近 東地区「農業と環境」 名城大学 農学部 受講者 21名 (20)

平成 29 年 8 月 21 日 (月) ~ 8 月 25 日 (金)

講師：小原 章裕 (教授) 山岸 健三 (教授) 寺田 理枝 (教授)  
森上 敦 (教授) 林 利哉 (教授) 汪 光熙 (教授)  
上船 雅義 (准教授) 塚越 啓央 (准教授) 近藤 歩 (准教授)  
奥村 裕紀 (准教授) 中尾 義則 (准教授) 森田 隆史 (准教授)  
森田 裕将 (准教授) 林 義明 (准教授) 鈴木 康生 (准教授)  
長澤 麻央 (助教)

- ・中 国地区「農業と環境」 鳥取大学 農学部 受講者 20名 (13)

平成 29 年 7 月 31 日 (月) ~ 8 月 4 日 (金)

講師：田村 文男 (教授) 山口 武視 (教授) 松村 一善 (教授)  
遠藤 常嘉 (教授) 野波 和好 (准教授) 伊藤 啓史 (准教授)  
竹村 圭弘 (講師) 遠藤 直樹 (助教)

- ・九 州地区「農業と環境」 琉球大学 農学部 受講者 15名

平成 29 年 8 月 21 日 (月) ~ 8 月 25 日 (金)

講師：仲野 拓治 (教授) モハメド アムザドホサイン (准教授)

教員免許更新講習は 4 地区で実施し、更新に必要な 30 時間の内、選択領域の 18 時間分が文部科学省から認定されている。今年度も昨年同様、農業教諭以外から家庭科教諭に加えて栄養教諭の参加が多少あった。

## (2) 免許法認定講習 (実習助手単位認定講習) (要請・協力事業)

実習助手の資質並びに農業技術力の向上を図ることを目的として、当公益法人より東京農業大学及び北海道酪農学園大学に開講を要請し、大学と文部科学省の連携事業として実施した。

### ○講習会概要と受講者数

- ・東京農業大学 厚木キャンパス 受講者数 36名

開講科目：「教育心理学」・・・1単位、「農業科教育法」・・・1単位

開講期間：平成 29 年 8 月 22 日 (火) ~ 8 月 25 日 (金)

講師：小池安比古 (教授) 石川 一憲 (教授) 土田あさみ (教授)  
鈴木 聡志 (准教授) 緩利真奈美 (助教)

- ・北海道酪農学園大学 受講者数 17名

開講科目：「職業指導」・・・1単位、「農業実習」・・・1単位

開講期間：平成 29 年 7 月 31 日 (月) ~ 8 月 4 日 (金)

講師：岡島 毅 (教授) 大西 千郷 (特任教授) 村田 亮 (講師)  
吉田 剛司 (教授) 平田 晴之 (准教授) 竹田 保之 (教授)  
栃原 孝志 (講師) 泉 賢一 (教授) 扇 勉 (教授)

森 志郎(准教授) 中辻 浩喜(教授)

(3) 農業教育功労者表彰及び感謝状の贈呈

平成 29 年 6 月 13 日農業教育功労者審査会を開催した。この表彰は申請から審査・授与まで農業教育功労者規程に基づき決定された。審査の結果、本年度は全国 145 名の授与者であった。

[平成 29 年度農業教育功労者表彰審査結果]

支 部	申請者数	合格者数	不合格者数
北海道	6	6	0
東 北	1 6	1 4	2
関 東	4 7	4 6	1
北信越	1 7	1 7	0
近 東	2 5	2 5	0
中 国	9	9	0
四 国	4	4	0
九 州	2 5	2 5	0
合 計	1 4 8	1 4 5	3

・審査委員

日置司明 石井稲吉 田原良敏 戸塚厚生 松戸多良  
末松茂孝 橋本倉司 田中平一 鈴木 隆 大木高之

・表 彰：本会規定により平成 29 年度各支部大会で表彰した。

3、農業教育・環境教育に関するフォーラム・シンポジウムの開催(共催)事業

フォーラム及びシンポジウムの開催については、今年度を過去 4 年間に実施した本事業の企画・運営・連携の在り方等全般について検討、見直しを行う事としたため、今年度は、下記のシンポジウムの開催のみの実施となった。

○柏の葉オープンディスカッション(第 4 回)・・・農業高校支援機構と共催

期 日：平成 30 年 1 月 20 日(土) 13:00～16:30

会 場：千葉大学環境健康フィールド科学センター シーズホール(千葉県柏市)

テーマ：「街づくりと食・農、そして祭り」

参加者：地域一般住民、大学教員・学生、本協会会員他

・基調講演「芸術と街づくりについて」

・講 師：羽原 康恵 先生

(取手アートプロジェクトオフィス理事・実施本部事務局長)

・ディスカッション

コーディネーター

野田 勝二(千葉大学教授)

尾田 正二(東京大学教授)

徳山 郁夫（千葉大学名誉教授） 古在 豊樹（千葉大学名誉教授）

限られた短い時間の中での意見交換であったが、参加者から積極的に意見が述べられ全体的に大変盛り上がった有意義な会であった。一般住民の参加者からも今後このような会を是非継続をして欲しいとの要望も寄せられた。

○農業女子フォーラム及び里山シンポジウムについては、平成30年度は運営方法の改善と地域性を生かした内容の充実を図って実施する方向で準備中である。

#### 4、地域文化（文化・芸術・文芸）振興に関する事業

##### 1) 全国農業関係高等学校エッセイコンテストの実施

日本農民文学会との共催によるエッセイコンテストを実施した。今年で9回目を迎えた。全国の農業系高校より各校で厳選された17作品の応募があり厳正な審査の結果、以下の様に入賞者が決定した。入賞者には賞状並びに賞品を授与した。

平成29年度・最優秀賞 「背中で語れる農家になる～父から受け継ぐ魅せる農業～」

北海道岩見澤農業高等学校 滝口 みなみ

優秀賞 「どぶろくを中心にして地域を興す」

群馬県立利根実業高等学校 萩原 健輔

「人も家畜も幸せな農業を目指して」

静岡県立富岳館高等学校 平野 伊吹

「長野の食を全国へ」

長野県立佐久平総合技術高等学校 小坂橋佳鈴

「将来の夢への大きな一歩」

大阪府立園芸高等学校 近藤 拓輝

「長崎県“離島”のために私達ができること」

長崎県立諫早農業高等学校 岡村 彩加

なお、審査会を平成30年1月16日に開催、結果を1月25日に本協会ホームページに発表した。

審査委員は下記の通りである。

野中 進（日本農民文学会々長）

日置 司明（公益財団法人全国学校農場協会理事長）

岡本 利隆（全国高等学校農場協会々長）

田中 平一（全国高等学校農場協会事務局員）

##### 2) 第3回農業関係高等学校農業・農村写真コンテスト

全国の農業関係高等学校の生徒（126点）・職員（14点）から140点の応募作品が寄せられた。平成29年7月26日に審査会を開催し厳正な審査の結果、以下の様に入賞者が決定した。この結果は、日本棚田学会総会で、また、本協会ホームページで発表した。入賞者には賞状及び記念品を贈呈した。

平成29年度 入賞者

- 生徒の部：最優秀賞「今年もイノシシの食害が大きかったぜ～」  
石川県立七尾東高等学校 栃本 守晴
- 優秀賞「田舎の中の田舎」  
群馬県立中之条高等学校 中澤 亮太
- 「丁寧」  
静岡県立田方農業高等学校 鈴木ひなた
- 佳作「初めての盆栽」  
東京都立農芸高等学校 卯城 直緒
- 「家族の幸せ」  
静岡県立田方農業高等学校 齊藤 美優
- 「今日の1枚」  
静岡県立田方農業高等学校 田邊 咲季
- 「腰が・・・腰が・・・痛いです！」  
石川県立七尾東高等学校 澤野 晃司
- 職員の部：最優秀賞「会津伝統野菜を次世代へつなぐ・・・」  
福島県立会津農林高等学校 江川 篤
- 優秀賞「丹那の朝」  
静岡県立田方農業高等学校 鈴木 保則
- 「主基斎田に咲く早乙女」  
香川県立農業経営高等学校 佐藤 広明
- 佳作「早乙女と初摘み」  
静岡県立田方農業高等学校 笹原 芳郎
- 「夕暮れ時」  
広島県立吉田高等学校 見田 良彦

## 5、広報活動並びに図書・機関紙等の刊行に関する事業

### 1) 広報活動

本公益財団法人の広報活動は、新聞並びにホームページによる。

- ・「公益財団法人全国学校農場協会新聞」の発行  
年4回発行して各会員に郵送している。主に本公益財団法人の事業について報告・予定及び各支部の活動状況の紹介が中心である。
- ・ホームページ  
本公益財団法人の事業・会計内容含む公益財団の概要を掲載すると共に会員及び一般の方に対して農業教育に関する研究成果の公表、研究会・シンポジウム等の告知、協力他団体との情報公開などに努めている。

### 2) 図書・研究集録等の発行に関する事業

- ・本公益財団法人研究局並びに全国高等学校農場協会振興局での調査・研究の成果

を研究集録にまとめて発行し、関係諸機関・関係団体をはじめ研究団体や会員校等広く一般に配布並びに提供している。

- ・これまで全国高等学校農場協会で農業教育補助教材として刊行していた「農業学習ノート トウモロコシ」・「農業学習ノート ダイコン」及び「実習手帳」を、公益財団法人の事業へ移行する件について、平成 29 年度第 5 回理事会で協議した結果、出席理事全員が公益事業として受け入れることを了承した。

については、6 月の定例評議員会に諮った上で内閣府へ申請することとなった。

### Ⅲ公益財団法人理事会・評議員会の開催状況

#### 1) 理 事 会

- ・平成 29 年 4 月 28 日（金）農場協会々館 ○平成 28 年度事業報告・収支決算書（承認）  
○平成 29 年度事業計画案・収支予算案（承認）  
○役員の変更について  
○定款の改定について  
○その他連絡・報告事項 6 件
- ・平成 29 年 6 月 16 日（金）農場協会々館 ○評議員会審議経過報告  
・平成 28 年度事業及び収支決算報告（承認）  
・平成 29 年度事業計画及び収支予算案（承認）  
・役員改選に伴う新役員の選定の件（承認）  
・代表理事並びに常務理事の選任の件（承認）  
・諸規程・規約検討委員の選任の件（承認）  
・その他連絡・報告事項 3 件
- ・平成 29 年 8 月 25 日（金）農場協会々館 ○平成 29 年度事業執行状況について  
・講演会に関する件 ・免許法認定講習の件  
・平成 29 年度農業教育功労者表彰に関する件  
・第 9 回エッセイコンテストに関する件  
・第 3 回フォトコンテストに関する件  
・農業女子フォーラム開催に向けての審議経過  
・シンポジウム実施に関する件  
○公益財団法人の諸規程の検討について  
・評議員会の開催時期の変更について  
・職員給与及び関連規定の検討について  
・常務理事の担当業務分担について  
○平成 29 年度予算執行状況と監査報告  
・その他連絡・報告事項 5 件
- ・平成 29 年 11 月 8 日（水）農場協会々館 ○第 54 回農業教育研究協議会について  
○平成 30 年度の事業について

- ・フォーラム、シンポジウム等の開催について
- ・教員免許状更新講習について
- ・免許法認定講習について
- ・農業功労者表彰について
- ・フォトコンテストについて
- ・エッセイコンテストについて

上記6事業について30年度も継続して実施することを出席理事全員一致で了承。

○事務職員「給与規定」及び「再任用職員就業規定」について

○農業教育関係団体の課題改善検討の経過報告

○農業学習ノート及び実習手帳の刊行・販売について

この件に関し出席理事全員一致で了承。

○監査報告

・平成30年2月16日（金）農場協会々館

○平成29年度事業中間報告

○平成29年度会計収支中間報告

○平成30年度事業計画案及び予算案について

○定款の一部改正に関する件

○理事辞任に伴う後任理事の選定に関する件

○刊行物の販売に関する件

○事業の見直し、検討結果について

○監査報告

○その他連絡・報告事項1件

## 2) 評議員選定委員会

・平成29年5月19日（金）農場協会々館

○定款の確認

○評議員候補者の確認及び選定

配布された評議員候補者推薦名簿を基に個々の推薦候補者について履歴・職歴等を確認し、それぞれ個別に慎重に審査した結果、全ての推薦候補者について不適格事項も無く、候補者全員を本公益財団法人の評議員候補者として選定することを出席選定委員全員一致で承認した。

## 3) 評議員会

・平成 29 年 5 月 26 日（金）農場協会々館

#### 4) 監 査 会

平成 29 年度は、4 月 28 日、6 月 16 日、8 月 25 日、11 月 8 日、平成 30 年 2 月 16 日に実施、理事会で予算・事業・サービスについて監査報告。

尚、平成 29 年度監査については、理事会開催当日に監査を行い、その都度岡本監事または渡邊監事から決算・事業・サービスともに適正であるとの報告を得た。

### IV収益事業

#### 1) 家賃収入事業

本公益財団法人は、所有ビル 1 階部分を 2 店舗（white space labo・和）に賃貸した。